

畧譜

六

石井 校

岩瀬 校

伊予田 校

井口 校

磯谷 校

伊波 校

岩田 校

伊勢

魚川

内閣文庫			
五	三		和
六	二		書
八	二		類
架	冊	號	類

六 冊

共十

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (6)
函號	155 17

二百五十九

現存共十五



畧譜

六

石井 校

岩瀬 校

伊与田 校

井口 校

磯谷 校

伊吹 校

岩田 校

伊勢

魚川 校

二百五冊内

現存 共十五

内閣文庫			
五	三		和
六	二		書
函	二	六	類
八	冊	號	
架			

六 冊

内閣文庫		
番號	和	36088
冊數	211	(6)
函號	156	17

共十五



藤原姓
氏山岡

記録御用所



藤原

母

大藏冠藤原是二十代後流山岡石子也

經廣末孫山岡一二尾野射親正後山岡園伊

山岡也後徒是山岡山岡為氏親正子

山岡山岡



妻正室名忠川女

冬河ら

権現権上清奉公仁永祿七戊子年二月野田
村邊一向宗一揆主命

権現権上清の忠江甲辰武田信玄と以合
長之於中野に合入るるに垣角江月島
其江入有く少の^三北在角西其河境月者
聚内と云く少の何年謀る少の擲捕主命

取江江月則少の合江中聚合江角と云く
擲捕主命

権現権上清感有る少の合江角と集江江月
合江角家付人少の^三為存少切主命
江下並少事一永祿十一乙未年近江其作
城責候田位長少の^三為少知者并其口席
江江月少を少切勅口席と想主少列白撰授
能少跡少江城主名江少事

元龜元年辛丑年

檢現稱遠在瀨根上為移り初

二帝位康稱上卷言以是後少以進之其業

二拾拾二進一月石月以是為并津二帝

中根在帝安友治古為信吾田史古島國時

二二二天正七年

任康稱上卷言以是後少以進之其業

二二二天正七年

任康稱上卷言以是後少以進之其業

二二二天正七年

二二二天正七年

二二二天正七年

二二二天正七年

二二二天正七年

二二二天正七年

江村のり道に取河を同らふに依りて
海働く如く竹矢の天正十二年申年尾張
解江の故に石川信春が依りてに依りて
酒井備後が松平石川信春が依りてに依りて
城下通の城に是れをいふに別掲と掛敵の
備後石川信春が依りてに依りてに依りて
款の人の村に進出するに依りてに依りて

依りてに依りてに依りて

権現権威のたふしに依りてに依りてに依りて
本戸一ツ防に依りてに依りてに依りて
依りてに依りてに依りてに依りて
権現権威のたふしに依りてに依りてに依りて
上意の依りてに依りてに依りてに依りて
依りてに依りてに依りてに依りてに依りて
依りてに依りてに依りてに依りてに依りて

伐之... 天... 年... 有... 者...
... 運... 方... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...

... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...
... 運... 運... 運... 運... 運...

一正

... 運... 運... 運... 運... 運...

母 山崎氏 忠門女

妻 山崎氏 道重女

八歳より父國太郎の母貞子とて山崎氏に
嫁也播磨守とて山崎氏に嫁也貞子
相公柏井の正室連成女也成女は山崎氏に
嫁也貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
連成女は山崎氏に嫁也貞子貞子とて
山崎氏に嫁也貞子貞子とて山崎氏に
嫁也貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子

山崎氏

播磨守貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子
貞子貞子とて山崎氏に嫁也貞子

斗城守伝

程氏程公之墓云云在武後世播磨守の教所也

時元末元年に以り成徳院に下りて之を柩井

に安んずる播磨守の墓に在りて後漢方守の墓也

中右馬守の墓に在りて武徳院に在り

河内守の墓

程氏程公 河内守也 仁忠度よりい知ゆ

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

今少少の誤りありて今力言ふ所也

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

程氏程公の墓に在りて武徳院に在り

五人獲之とせんは... 津田... 向... 以... 以... 爲... 獲... 九...

尸... 不... 以... 不... 道... と... 死... 守...

松七兼光社ら佐渡の統首を捕らへし
場をさくらの物系道の也り甲子年推系隊
の事小秋を首首九仙考らぬんを甲
子との白服仙考らぬんを甲子年推系隊
を首首取ん戸捨をせん人殿の事さくらの物系
惣系場不遠道に也り甲子年推系隊
の事小秋を首首九仙考らぬんを甲
子との白服仙考らぬんを甲子年推系隊
を首首取ん戸捨をせん人殿の事さくらの物系
惣系場不遠道に也り甲子年推系隊

将志疎外は信長親用しりり仙考らぬんを
甲子年推系隊の事さくらの物系
惣系場不遠道に也り甲子年推系隊
の事小秋を首首九仙考らぬんを甲
子との白服仙考らぬんを甲子年推系隊
を首首取ん戸捨をせん人殿の事さくらの物系
惣系場不遠道に也り甲子年推系隊

山子之松山の天地若くは 山勢
清氣山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢
山子之松山の天地若くは 山勢

父松平直房と云ふ月湯と云ふ子志摩と云
ふ河原と云ふ 後河原と云ふ大坂と云
ふ河原と云ふ 河原と云ふ河原と云ふ河原
中河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原
河原と云ふ河原と云ふ河原と云ふ河原

我亦以所... 功氣
予能... 今... 川城... 今... 少... 彼... 日...

治... 其... 後... 城... 忽... 予... 云... 河...

事と云はれはたに由た是なりと云ふは入道可
はる好し海を来とけり此油巻も勢なりと云ふ
何はた是れ補ふと思ふと云ふは我も生に誰同
神前をたてしるはたの必く法新は事
有るはたの爲なりと云ふは南の事なりと云ふは
らと云ふは海を給ふなりと云ふは法新は号觀体念
か捕たは海を給ふなりと云ふは觀体念守因名
曰師と云ふは是れ補ふなりと云ふは觀体念守因名

情と云ふは海を給ふなりと云ふは法新は号觀体念
城に有るは觀体念守因名と云ふは法新は号觀体念
入道と云ふは是れ補ふなりと云ふは觀体念守因名
海に掛川に淨土と云ふは是れ補ふなりと云ふは觀体念
系の事なりと云ふは是れ補ふなりと云ふは觀体念
の海を給ふなりと云ふは是れ補ふなりと云ふは觀体念
尼寺海入部江府と云ふは是れ補ふなりと云ふは觀体念

五人使の觀体に扶持方法度間扶持方法
Pの五人の事は、清和の御代に
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
清和の御代に撰二法は五人使の御代に撰
由五人の御代に撰二法は五人使の御代に撰
會法は撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀
と云ふ事は、清和の御代に撰二法は五人使の御代に撰
五を撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀

一法は五人の御代に撰二法は五人使の御代に撰
扶持の御代に撰二法は五人使の御代に撰
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
五人使の御代に撰二法は五人使の御代に撰
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云
撰二法は五人使の御代に撰觀体一儀と云

三歲揚金以得志心易以觀體人後之術定也
清能見沈人之事一以由下之人志具其年
形中一之四也甲以族移能甲序之志一之
形書有四月而以觀體人後之術定也
四衣之知乃大志也補死之信一有觀體人後
也老甲之志一之四也甲以族移能甲序之志
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也

中一之志一之四也甲以族移能甲序之志
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也
一之四也甲以族移能甲序之志一之四也

江我亦能所入之者自以修徳之清家之形
神付のく山家門尾法林経律攝而故上其方
之者一太荒老を一夜らた之人志拂形以故
尸之掃形以故之乎印之思以之其之
塵之合遠之扶持人之以持持以故之今少
お侍可尸 清家と云ふは別て軍つ迄
我亦能所及思の時其之人而紙中問及我亦
所入之者もた之人の心意以て之亦能所及也

尸お侍の在りたる處中捕家留りたるは能く
順は存身之體方は山古多分たるは能く
之尸の一人の子を以て可尸 清家と云ふは
おのそ我亦能所及思の時其之人而紙中問及我亦
之部之能くありて尸中其方は之石二三其
其石の合方は能く尸の得たる體合も其は
之後其方は能く其方は能く其方は能く
見ゆたあり 清家と云ふは別て軍つ迄

大徳寺僧録以来上人等中元中甲午年
 柳山寺主經法得之云云唯結一也又結
 寺主江成之云用一也皆一兼應二寺之年
 順江戸一十九年元符法在二二九号
 法福院柳山寺主經法得之云云唯結一也又結
 下以歛一就休形一也 淨心寺一也
 願福我亦就一也成乃成一也皆一也就休
 願之也四方一也連一也形一也下一也外

四後攝山寺一也者皆一也代一也教年一也法在云云
 一也法在云云七拾人持持合日一也信一也法在云云
 尸切白一也曆一也甲午年一也書法一也法在云云
 甲午年一也法在云云法在云云法在云云
 山中寺一也法在云云法在云云法在云云
 父子法一也法在云云法在云云法在云云
 二間信地法在云云一也法在云云

法福院柳山寺主經法得之云云唯結一也又結

和尙二三江為書後中白虎門女四子九

天樹院極上上二三江

法揚院極上上二三江

後天竺上上二三江

心易月具先程上上二三江

三月酒并社上上二三江

河部豐後上上二三江

板倉河波上上二三江

白田門書也二三江

次所身又治古為二三江

心若中方上

法揚院極上上二三江

法揚院極上上二三江

人上觀休念上上二三江

天樹院極上上二三江

心若中方上

法揚院極上沙門教年如初。以銀鍊成
江戶檀同系。為密文。於己年二月十六日病歿
年八拾之末。其心音。亦存於蘇

一繁 伊予田石左衛門

在井島郡。方。其。名。在。多。一。繁。將。伊。予。田。石。左。衛。門。
相模國浪人。其。子。孫。亦。公。

女子 治部卿右衛門西次妻

一利 伊予田石左衛門 入道一徳

伊予田石左衛門。其。子。孫。亦。公。
之。正。和。年。六。月。十。日。病。歿。其。子。孫。亦。公。
甲。辰。年。十。月。十。日。病。歿。其。子。孫。亦。公。
乙。未。年。十。月。十。日。病。歿。其。子。孫。亦。公。
丙。申。年。十。月。十。日。病。歿。其。子。孫。亦。公。

一長 伊予田石左衛門 幼牛史

母 天守石左衛門道重女
妻 伊予田石左衛門西次女

高心大德通風以招有正保之有年擢以
厄于濟以堂事者石湯湯義德二癸巳年二月
江戶上兵不亦後以父親德入道法之護志心
大德補先德而事公位系後之要庫上之
親德改男三之為男 沖原四家公親書其心
吳光年進事於此以親書而備並如後
沖田由福德守之德公身
法揚院梅上之書之於後

天樹院梅上之書之於後 沖田可治之庚子
年十二月廿八日
法揚院梅上之書之於後 沖田可治之庚子
年十二月廿八日
先四殿旨 沖田身之月年八月廿四日切書旨旨
後○月年九月廿書院書○月二之寅年十二月
去自江後改○月之亥卯年二月廿八日抄書書
張福之江後改○月廿日抄書書長福局

以務者其上年二月十日自中宮の同年九月
其日相良様海出湯治沙法の同年十月其
将半去矣 其日見の同年十一月十日
紀伊大納言梅道云身紀伊國上早後月日
其日自中宮の二月七日自中宮の同年
十月十日自中宮の同日自中宮の
立神宮分侍二月十日自中宮
姫君御前部其の西之十二月十日自中宮入

大見書江五條道中上陳書書中宮分侍の
同年十月十日自中宮の同日自中宮の
其日自中宮の同日自中宮の同日自中宮の
和泉守中野守二代家老江御勤の同日自中宮
二三年九月十日自中宮の同日自中宮の同日自中宮
人江書書入切米百石之人技巧其年江納
戸山書の自中宮の同日自中宮の同日自中宮の

沖君位有戸田伊藤与上京出御戸田用初
交是月十日有是日同年六月十日沖君
年八月十二日首領少信部公御首領
〇月四丁卯年七月十日有是日少信部信入
〇月十日有是日有是日有是日有是日有是日
江左月〇元福之屋年年正月十日病死六
拾六歳日守と森

女子之文

新心源大寺之住持

源部之常江寺之住持

正英

母 戸田正英之妻 正直女
妻 神保公女也而正直女

伊予国柱屋町 幼牛寺人

兼應二癸巳年二月二日尼子勝久江戸上幕下
赤坂信久父三郎室河内守

清揚院極長橋田院 清成寛文二癸卯年十一月

廿六日 清目見〇月大乙巳年八月廿六日書院在

〇同年十二月廿二日山切東武百法下元後控凡

海〇月十日唐成年九月八日候

清揚院極

文能院極極市人拾一人為清目控長為後為

清目親見傳中守宅 清揚院極長

文能院極長 清目見月日九日候傳中守宅

清成院極長 清目見月日九日候傳中守宅

七月廿六日〇延宝八庚申年四月十日見志

清目見月日九日候傳中守宅

清目見月日九日候傳中守宅

清目見月日九日候傳中守宅

清目見月日九日候傳中守宅

貞享二年十月五日 津和野に於て
五知りし流石百法に増公二旨候下
物申申事少少の事申上申法に候
貞享二年十一月十日 書院書院に増
書院公書院に増公二旨候下
九月十二日 家督切米百法に増
依公書院に増公二旨候下
此等申上申事少少の事申上申法に候

元正二年十月五日 津和野に於て
五知りし流石百法に増公二旨候下
物申申事少少の事申上申法に候
貞享二年十一月十日 書院書院に増
書院公書院に増公二旨候下
九月十二日 家督切米百法に増
依公書院に増公二旨候下
此等申上申事少少の事申上申法に候

貞享二年十一月十日 書院書院に増
書院公書院に増公二旨候下
九月十二日 家督切米百法に増
依公書院に増公二旨候下
此等申上申事少少の事申上申法に候

十月廿日病死之後生祭日守身

一任

任事田主様 幼少者

是日病死之時和泉守と申候に於て是日守身
結初事と申候事二代家老と知立様と申候事
十月廿日病死之時和泉守と申候に於て是日守身
西暦年二月廿八日病死之時

拒武

任事田主様 初一二日

母神宮長女直重女

妻前田主様直勝女

常憲院様
文昭院様

寶永二年四月十日

御目見の月二十二年四月十日
御目見の月二十二年四月十日
御目見の月二十二年四月十日

年定八月廿二日... 九月廿二日... 十月廿二日... 十一月廿二日... 十二月廿二日...

三松之歳月守并

輝武 作高三三三三 初長三節

元亨 三本甚高 功之三

女子之入 利根... 春田

春田

正藏 作書年夏

享保二辰戌年四月十六日自子世名跡幸紙
以得大當方と未家智之仕以有形之家

断絶

孫氏之系

文照復原
一 抄筆 山掛物
三幅

一 御筆 山軸物

一 新文法

一 今様子人形巻紙

一 焼物文法

石京之権左衛門尉任今亦持信

武道

伊予国利土島

知事之也

母 伊予国利土島 伊予重女

素 伊予国利土島 伊予重女

文能深極於播磨嚴天松一成年九月廿七日

又三月是為極於中令信新就於二月廿

廿八日神目見〇月之至至至年七月十八日切東

百儀之人技均〇自是學思守邦年 〇常儀之身

戶田江崎等之在源曰月二日江崎有月月廿一日發

足月月廿八日去矣用修之首尾能也勤用

月廿九日江崎等月廿八日切府神目見〇月

年六月廿五日江崎等〇月年十二月十二日

加增百儀以技均方〇元福十一成實本年十月

十九日江崎等〇月切增百儀〇切增百儀〇實錄

元甲申年十二月十二日西九月廿九日〇月次子

年九月廿九日西九月廿九日〇月六日〇年一

月有以中凡 辨從移因本加中勤の月年
三月廿六日 初傳百法の正徳二三年八月
十一日 半人凡の享保二丁酉年正月廿二日 岩
川 火后宅焼失 火の予日 延焼体。
日二 丙戌年二月廿六日 丙午二月廿九日 岩
川 火 初日 追多 得 火 何 月 以 礼 延 焼 体 岩 川
二月 丙辰年正月十一日 堀子 堀古 堀古
二月 丙辰年正月十一日 堀子 堀古 堀古

上院の月日正旨 丙午二月廿九日 岩川
堀中 堀子 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古
堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古
堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古

種武
堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古
堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古
堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古
堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古 堀古

寛永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日
實永二萬四年八月十日

實心

實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心

實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心

實心

實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心

實心

實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心

實心

實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心

實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心
實心

寛保三癸亥年有月五日亥子定年十月年六月
二日家督少重信○寛延元戊辰年皇十月
九日寛九重信後右○寛曆乙亥年十月九日
病死於拾七歳月五日葬

女子 早世

武繁

任者三三為新

母 後攝政子永貞女

妻 川井又右衛門之四女後難引

後妻 山崎氏又任子女

後妻 野呂氏又任子女

子 田右衛門

寛曆乙亥年十二月家督少重信○

元和八年卯年六月家督少重信○

年之四七年浦村信吉在島田用候

長水曰永年曰月... 上院在相... 中平年正月... 同日... 山... 野... 是... 百... 十...

白富 行... 武...

十日... 幼... 少... 宣...

氏慎

松...

三...

宣政八年... 宣政九年...

子... 武...

子...



藤原氏

岩瀬

長河國垣城之岩瀬和泉守氏

長男

岩瀬江部 功成部

氏後

母家女

音喜

今川義元任

授現稱三石長海 河左城ノ村永福ノ寺

本年正月十日酉時ノ一ノ月十二日巳年戌日

二股多似之元来
之月物取
後ノ...

信玄遠以二股ノ取攻ノ時於月新討死年終

知冬冬年之保番樹后ノ孫

氏定

忠清社系曲

母家女

長妻

永福ノ寺壬午年二月十日酉時ノ一ノ月

授現稱三石長海 河左城ノ村永福ノ寺

本年正月十日酉時ノ一ノ月十二日巳年戌日

信玄遠以二股ノ取攻ノ時於月新討死年終

知冬冬年之保番樹后ノ孫

氏則

忠清社系曲

母家女

長妻

山左城ノ村永福ノ寺

天正十二年庚午

推定極上御書之江正九年己未二月廿百
夜武田信元先公之御書之御門拂出云々
其押免首級之御書之御門拂出云々
年六月之御書之御書之御門拂出云々

氏典

母 山内清盛御書之御書

長瀬玄直御書之御書

後府御書之御書

天正十二年庚午

推定極上御書之江正九年己未二月廿百

其押免首級之御書之御門拂出云々

其押免首級之御書之御門拂出云々

其押免首級之御書之御門拂出云々

其押免首級之御書之御門拂出云々

其押免首級之御書之御門拂出云々

病死年号又約也古律守集

氏次 忠源右左衛門 信如

母 松平大隅守重信女

素植村之信正女右衛門

慶安八年壬午年八月廿二日家母信正女公の

元和九年己未年四月廿二日初の申百石

御判所及致し大御判所御唐二年申年

米山門智之丞元永御唐二年申年四月

元永御唐二年申年四月廿二日病死御唐二年申年

大御判所御唐二年申年四月廿二日病死御唐二年申年

信山門智之丞御唐二年三月廿六日病死御唐二年申年

信山門智之丞

真助 山崎惣兵衛 御唐二年申年

元永御唐二年申年四月廿二日病死御唐二年申年

氏忠 山崎惣兵衛

元和八年庚午年八月... 思召... 乙卯

慶次 尾門公右馬 乙卯

年... 尾門公右馬

女子 尾門公右馬

氏初 尾門公右馬 乙卯

母 植村之孫 乙卯

妻 行相 乙卯

寛永十三年乙酉年六月... 乙卯

日十九... 乙卯

十二月... 乙卯

乙卯... 乙卯

源朝臣房上首後地之延寶二年閏年二月

南平後國貞元二月十日既令改元

神皇正統記九月晦陽陽元平元年四月六日改元

年六月廿七日改元元平元年四月六日改元

川城被劫也閏七月二十日神皇正統記

改元之始也九月十日陽曆四月十日

神皇正統記元年十二月廿七日改元

二月廿七日改元元平元年四月十日

神皇正統記元年八月十日改元

二月廿七日改元元平元年四月十日

石門之全貞平七月廿七日改元

十月廿七日改元元平元年四月十日

神皇正統記元年八月十日改元

二月廿七日改元元平元年四月十日

八月廿七日改元元平元年四月十日

二月廿七日改元元平元年四月十日

七拾五... 宗... 日...

氏房 宗源... 日...

宗文... 氏...

宗子... 氏...

氏朝... 氏...

氏朝... 氏...

氏朝... 氏...

素城... 氏...

元亨二年... 氏...

元亨二年... 氏...

元亨二年... 氏...

元亨二年... 氏...

元亨二年... 氏...

元亨二年... 氏...

元亨二年... 氏...

二十七年七月廿七日
 令抄致江蘇○家○
 巡捕○
 令致授授時股二
 同年定八月廿五日
 二三在年八月廿五日
 女子文
 一
 二

氏英
 光緒廿九年
 知令

母城
 素戶田

又照
 家
 家

乙卯年八月十三日 若夫長子之為
五弟内

書後復之 延享二年十月廿八日 國巡用
三月廿二日 延享二年正月 來山所 四月廿二日
松坂河後 二月廿八日 延享二年 四月廿二日
二月廿二日 延享二年七月廿二日 四月廿二日 室曆六月
年七月廿二日 延享二年七月廿二日 七月廿二日 延享二年

氏以

忠剛古長男 如孫你清印
廿二日 延享二年七月廿二日

素天女之住江島之雄好女

室曆六月廿二日 延享二年十月廿二日 室曆六月廿二日

六月廿二日 延享二年二月廿二日 延享二年六月廿二日

十月廿二日 延享二年八月廿二日 延享二年十月廿二日

馮氏 忠剛令淑印

延享二年九月廿二日 延享二年十月廿二日

一 延享二年八月廿二日 延享二年十月廿二日

二
女子
尾中屋
植村頼母改親妻

氏記

若母 天理依屋の推好女

実母 家女 子子名

妻 長文氏以長女

四和之百成年十二月廿一日女子の日記 戊子年

三月七日自家智山寺信の日記 永二至七年八月

七月廿七日信の日記 永二至七年十二月廿一日

四番 寛政五年二月廿一日信の日記 永二至七年十二月廿一日

三月廿一日信の日記 永二至七年十二月廿一日

養女 子子名 氏記 永二至七年十二月廿一日

氏記 尾中屋 初子名

二和八戊申年六月廿一日初白 四目見

女子

氏庸

志康之次弟

女子

氏庸

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]



友来姓 (Yōrai no Na)

若水

之河田路之藏之若水初若水与武吉男

治和氏俊之俊若水若水氏次三

男是氏若水氏若水氏若水氏若水氏

氏房

[Small vertical text next to '氏房']

若水氏若水氏若水氏若水氏若水氏

若水氏若水氏若水氏若水氏若水氏

若水氏若水氏若水氏若水氏若水氏

元々通子任在... 乃任交多... 二月... 元亨... 乃任交多... 二月... 元亨...

氏長

天和元年... 十... 天和元年... 十...

七月... 上... 恩... 七月... 上... 恩...

秀家

正徳... 減... 正徳... 減... 正徳... 減...

二月死年事未詳

馮氏

今行所

其母氏名未詳

母之伯子名未詳

正嘉二年二月三日病歿于京師

至曆十庚辰十月廿九日歿于京師

庚子二月十一日病歿于京師

十八日病歿

其父名未詳

其母名未詳

氏

其父名未詳

其母名未詳

其父名未詳

其母名未詳

宣政元年十月七日病歿于京師

七月廿九日病歿于京師

其父名未詳

其母名未詳

其父名未詳

其母名未詳

其父名未詳

其母名未詳

其父名未詳

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]



友原姓

岩瀬

三河國河合郡友原村友原長男

岩瀬治政氏後曰代官原古丸男

三男丹波守高陽三郎

岩瀬市之場

氏志

立心由子以花知中友 邪神

二与或方儀礼先之和方以方之

寛永元年八月
省中後御
之御
之御

此書院所定由之由之書院

何れも
百子
百子
百子
百子
百子
百子
百子
百子
百子
百子

印

氏鑑

伊保氏
伊保氏
伊保氏
伊保氏

布衣
赤衣

何れも
何れも
何れも
何れも
何れも
何れも
何れも
何れも
何れも
何れも

三十二年下頃の事
父存ニテ下テ々々
三十二年四月廿七日
父存ニテ下テ々々

力心録

三十二年四月廿七日
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

忠考

母氏 氏名 不知

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々
父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々

父存ニテ下テ々々

系屬三下 五世
孝子 福原忠孝

忠孝

五原 初子

子 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

孝 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

孝 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

忠福

忠福 忠福 忠福 忠福 忠福

忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福

忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福

忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福 忠福



源姓

石井

石井 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

石井 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

定次 石井 忠孝

福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

忠孝 福原 忠孝

忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝 福原 忠孝

貞子四女
下中儀可

勤定子と云ふ事
用事知の元禄二年
正徳二年八月廿七日
享保二年八月廿七日
貞子四女
下中儀可

末
貞子四女
下中儀可
正徳二年八月廿七日
享保二年八月廿七日

口少知社公仕切
貞子四女
下中儀可
正徳二年八月廿七日
享保二年八月廿七日

定侯

母少知
貞子四女
下中儀可

妻若父定次女

正徳二年八月廿七日
享保二年八月廿七日
貞子四女
下中儀可

寛文十一年六月廿五日
公病歿年六十一
初月守系

如子 卷子定後妻

女子 七井左下喜次妻

東 石井忠三郎 早世

信美 石井半四郎
享和元年七月廿一日
公病歿年六十一
初月守系

長母 石井次定定源女
享和元年七月廿一日
公病歿年六十一
初月守系

妻 少前由左男の正女

享和元年七月廿一日
公病歿年六十一
初月守系
享和元年七月廿一日
公病歿年六十一
初月守系
享和元年七月廿一日
公病歿年六十一
初月守系

定好

石井長治郎

後稱我

母 山崎山子乃為女

生喜

子百子孫

光緒二十三年三月廿二日
宣統二年申年九月廿日 家世山崎山子乃

己卯庚午二月晦日山子乃死於月十二日午年十

二月二十七日 病死山子乃信入の定好八年四月十日
改修 妻河原山子乃孫村也

一 某

石井山子乃 早世

二 定暗

石井山子乃

母山崎山子乃 一高一柳山子乃 是定好也

定直 石井山子乃
定直 石井山子乃 宣統二年四月十日 定直 宣統二年七月十日 定直

三 定直

石井山子乃

七 某

石井山子乃

女子二人

申川 女子二人

二人未嫁

十八

長 長子

丹是佐女

源氏

石井

乞但系伴

長

石井

石井

政長

津田

津田

津田

田

有徳屋福次郎 享保三年九月廿五日



定春

柳原新四郎

延享元年八月廿三日
柳原新四郎の御子

定直

柳原新四郎

寛政元年二月廿三日
柳原新四郎の御子

如子

柳原新四郎の御子

寛政元年二月廿三日
柳原新四郎の御子
如子
柳原新四郎の御子
寛政元年二月廿三日
柳原新四郎の御子

信色

寛政元年二月廿三日
柳原新四郎の御子

高曹

柳原新四郎の御子

柳原新四郎の御子

柳原新四郎の御子

寛政元年九月七日
柳原新四郎の御子

宣統元年十二月廿五日 清國公使 宣統九年十二月廿五日

改年 宣統元年 宣統九年

宣統元年 宣統九年

宣統元年 宣統九年



平姓

石井

宣統元年 宣統九年

宣統元年

勝廣

宣統元年 宣統九年

宣統元年 宣統九年

宣統元年 宣統九年

宣統元年 宣統九年

孫九郎

利勝

母是也

孫九郎

孫九郎

△
二
子
之
中
有
孫
九
郎

寛永九年七月廿九日
寛文七年七月十六日
死

母是也

△
孫
九
郎

利久

孫九郎

寛文七年七月廿九日
死

△
子
之
中
有
利
久

寛文七年七月廿九日
死

孫九郎

利勝

孫九郎

貞享元年十二月廿六日
死

元文二年十二月廿九日
死

孫九郎

正廣

孫九郎

元文二年十二月廿九日
死

但の正廣九郎 七月廿九日
死

孫九郎

正家

孫九郎

元文二年十二月廿九日
死

母

定保三年二月九日 幸子

明和三年午丁

重九卯 九月卯方 重九卯 〇四部定

重九

忠臣

初

天明七年三月廿九日 幸子 重九卯 〇四部定

八月廿九日 初卯方 重九卯 〇四部定

重九卯 〇四部定

源氏

源氏

字重九卯 〇四部定

重九卯 〇四部定

重九卯 〇四部定

重九卯 〇四部定

重九

重九卯 〇四部定

代々道口園と在り江佐在り後と坊家と南
風船、獨り生れり此後長く為り佐木氏族
之一家門宗意江佐と應法也、大坂の長
重佐佐江佐後年

檀兒福江佐也、年号不明、天福元年自著記
終年不知

重成
御前中御と考ふる可也
雷吹後多坊

宗次
重信
伴吹市兵衛

母
妻
多子也

檀兒福江佐也、御前中御と考ふる可也
信奉の元和二年己酉年九月、病死、年幾
蘇河也也

宗唯
重忠
伴吹又三郎
妻
多子也

名酒庄存忠元様
寛永七年一月廿九日
不審知り不詳申下候
御裁合下由

江利物家

中法園之内市井村白石山内村
左邊村之雜官石村
今御百石申令持申下候
御裁合下由

寛永二

十月廿九日 御裁申下

伊勢又三郎

寛永一十二年十二月廿九日
病死年終少知
芝天御守謹以淨泉後奏

重次

重利

伊勢市奉行 一又三下

母
十毒
伊勢市奉行 伊勢市奉行 伊勢市奉行

不審知り不詳申下候
御裁合下由
寛永七年一月廿九日
不詳申下候
御裁合下由

寛文五年七月五日病歿
年七十五百病歿
年七十五百病歿
年七十五百病歿

如子河野重隆

正人

河野重隆

母佐野因幡守重隆

妻林六江守重隆

寛文九年二月十日
常陸守河野重隆
知見
天和二年正月十日家
知見
寛文九年二月十日

正人
寛文九年二月十日

河野重隆

古河重隆

河野重隆
河野重隆

河野重隆

河野重隆

百秀 伊波文左衛門

母 伴六郎の長女

上願寺願某の長女

百酒屋原代喜保の長女 享和元年十二月廿一日家督

少善清の月九甲辰年十一月廿七日新田の因

日丁巳 享和元年 月日 光 以江系也 月九甲

宮二年二月廿日 百酒屋原代喜保の長女 伊波文左衛門

享和元年十二月廿七日

年六月廿二日 少善清の月九甲辰年十一月廿七日

月日 光 以江系也 月九甲

初名の月七丁巳年十一月廿七日 初光の長女

日丁巳年 九月廿七日 初光の長女 伊波文左衛門

伊波文左衛門

女子 初光 伊波文左衛門

正秀

伊吹公命 早世

由方

伊吹又公命 早世
寛保三年三月廿一日 伊吹又公命 早世
法皇三十二年

信方

寛延之庚午年四月廿一日 伊吹又公命 早世
信方在位進位年次

女子

永田想左衛門政の妻
喜極
作次廣次命

○正秀
一三三
二又三
三又三
四又三
五又三
六又三
七又三
八又三
九又三
十又三

米島上願玄領某の女

寛保十一年 米島上願玄領某の女

某 氏名不詳

後妻 孫丹文之妻定博女

宝曆八戌寅年二月廿六日 某子の母

年十二月廿六日 家督小吉清の母

宝曆八戌寅年四月廿六日 家督小吉清の母

宝曆八戌寅年四月廿六日 家督小吉清の母

秀媛 伊吹後方郎
高麗 高麗 高麗 高麗

和明 伊吹春深中 早世

定雄 櫻井英之節

西水也 嘉年七月 早世
櫻井文子 信穆 早世

系 早世 早世

定号 櫻井德藏

西水也 丁酉年七月八日 早世
櫻井英之節 定雄 早世

高行 伊吹文之節 早世

若母 櫻井文之節 定博女

若母 日人女 高行 早世

妻 若母 又 櫻井女

天保六年 二月 早世

日自家多山書信の宛て改二層庚午四月

廿七、大栗書。日七年三月、文之飛日本、多
市多夫の

女子夫 吉子子の妻

女子 久保作左衛門の妻

女子

女子 松原の妻

有系姓

坂若

中氏漢升

大織冠禰足二千七世因大信実雅代
江島漢升初任人漢升初前与長政書

漢升及二弟

政廣

母不知

妻改名信實与有弟女



檀根痛溢和 淨正承元元年為宗也以年月
之知予仲山日 以之相口法於彼心極多宗全係
也於病死年數其地少也

改義

檀井角

上法分及上法分也後為之後元和年中

水守伊綱之殿上法分也正室也元年月日也

而北法分節之在日法分

改義而也

改之

母 後法分のりんりて女
之妻

兄有後 上法分殿也其のりんり父也

以下宗室也此法分也其のりんり父也

名檀根痛 淨正極く祖父檀井由希也其のりんり

如ら法分也其のりんり母也上法分前字石室也

檀根痛蒙 上法分兄有後也其のりんり

寛永七年一月日病死年之知谷中

卷泉寺上法分

蘇子人

其行因急事而歸

破告市如

氏稟

其母之

其母之

其母之

不敵後稱代意永七年年家智也

○後也

卷首後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

法福後稱代意永七年年家智也

如子 卷首氏稟書

氏昭

母 改名市左衛門治之丞

字 幸妻

養育院極代明應二年十一月入市御

法務院極代明應二年十一月入市御

改名市左衛門治之丞

家永記三年七月隱括利發運新口改○

享保六年正月病歿八宿御祭口年壽

氏治 改名新之助

年月り少知於極田屋中御祭口年

改名新之助

氏治

貞享二年一月於極田屋中御祭口年

改則
此等字句... 改則市古...

吾母... 實母... 妻...

妻... 改則市古...

常憲... 改則市古... 〇日... 年六月...

不... 改則市古... 〇日... 年六月...

長政
井... 改則市古...

妻... 改則市古... 妻...

百位後稱代享保十七年九月庚午年庚子二月
年七月己卯年庚子二月
十月庚午年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月

明和七年十二月十日
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月

存其院極其師二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月
二月己卯年庚子二月

如子 庚子長政茶

忠政

政谷新屋

母 政谷市尾の政則女

妻 神村六右衛門の政則女

治政院梅代四郎六世年三月五日幼く母見
○安永八六年十二月九日家督山善傳の元服
午年七月五日自志願元服○寛政四十年

四月十六日御用 上院の御用員編御使
又之御下○同御用士月五日病歿
葬日寺 蘇

女子三人

野村体任令房妻
信長 比叟 信長 信長
おのり屋の右田氏の妻

政賢

政賢字内

元禄二年三月七日病歿

馬車大改命

任秀

其妻久子年十二月廿五日
其妻在命改命年

張

張公新

其年係之持

宣政六年二月廿五日

後原姓

淺井

大織冠鎌足二十七年

八代以別淺井

長政

磯吉市左衛門

改之

台德院様

沖卷極者祖父淺井

長政息女

市右衛門之儀奉出 上母方苗字被卷
抄改了也

市川氏要三書
松右三郎玄揚

○ 氏信

清揚院極冲時於橋田 冲殿貞享四年
四月廿日半人得新規也 右公少切
米百石給儀。元祿四年十月五日
小十人組等改加増石給儀合貳百儀也

○ 同日十四巳年正月廿日 死右中養泉
寺葬

實加度深守郎勘次男

松右三郎玄揚

○ 泰隆

母甚多

元祿十三辰年六月廿日 勘次子 ○ 同日

巳年七月十日 泰隆 ○ 同日十五年

十二月廿日 橋田 冲殿 小十組 ○ 宝永

元申年十二月十日 西丸焼古 石山書

唐兵三書

○同日六年十月廿九日大出番○享保十
六年八月廿二日死寺日上

嘉治若形之...

○同日六年十月廿九日大出番

隆政

享保六年八月廿六日養子○同

十六亥年五月九日死後○元文二己

年十二月廿五日拂方出納戸○延享三

是年七月廿四日拂方出納戸○宝

曆十二年六月十四日死五拾五歳寺

日上

嘉治若形之...

氏政

母暉山

宝曆十二年四月十八日初見○口年

九月二日家信○明和乙子年正月十九日

大出番○安永七戌年十二月十日病死

○月九子年二月廿八日死之拾六歳寺

松若三郎主簿 初八十郎

此書... 門上... 宗...

隆政実考

砥石夜次郎

言致百俵

安永九子年六月六日表子...

政右... 弟...

中原姓

井口

井口... 義氏...

高宗...

井口...

波仕一樂

寛文十一年十月...

...

九月...

宝永元年

○文福十六年八月廿六日申人組昇近藤

文昭院の儀統序系及御書の宝永

六年八月三日病免○日七年七月

廿二日波はり享保十一年十月十三日

死七指の系江戶山名川若旅寺

葬

三思

井口助右衛門 小島守之丞

宝永七年七月廿七日母の儀

本年三月廿六日表平右衛門イロウの格儀

子成の享保十二年正月十二日イロウの

右衛門の月十七年六月廿六日西丸

奥平右衛門の儀以平味之由

出候之上所用寫物令等イロウの

物等系格儀七枚。享保三年四月

廿五日西丸切イロウの

有徳院の儀系平川山名守之丞の

宝曆二年十二月十日加賀守之丞

今之校

博覧強記の薈華... 長久保嘉康卿の如き

日正年十二月廿二日... 徳川家康公の

明和元年十二月廿二日... 徳川家康公の

同年十二月廿二日... 徳川家康公の

二月廿二日... 徳川家康公の

二月廿九日... 徳川家康公の

二月廿九日... 徳川家康公の

高虎

高虎の事... 徳川家康公の

井口物次郎

徳川家康公の

寛文三年十二月... 徳川家康公の

二月十九日... 徳川家康公の

二月十九日... 徳川家康公の

二月十九日... 徳川家康公の

二月十九日... 徳川家康公の

二月十九日... 徳川家康公の

二月十九日... 徳川家康公の

享和元年四月廿一日
寛政八年二月八日死
葬

東柳三平也
一子也
其母也
其父也
其母也
其父也

寛政之元年十月廿日
年二月廿日
死之後之
書

三平 井口多入官

其母也
其父也
寛政八年十月廿日

其母也
其父也



友系姓

井上

大織冠謙足、末葉人皇七十六代近
清流名安四年、織中因村水取信、井
家石内取細流、村井上、及

宗位

助三

信長、仁之後、天守、壬午、清和、下、
山、上、有、取、以、石、上、百、石、江、是、野、

那月乙酉村に依在仕奉之に後行
上落の言助に下は 作付く人野原等
福多多揚所能成し又助に奉りて書く
事切り足天取りて産村白山等
名産烟山菓等進下りて同心相見
少許ありて方山等へ付手請ふ書
右に録てお勅に依りお勅に依りて
言下西陣山等に於て知て産村に依在
に福多所立る山等と奉りて中条堅意

おろし下りて山等の人お勅に依りて
おろし下りて山等の御書に石田山等
乃使那代小田村に依りて平太書等
その乙酉村に依りて依在の梅に下り
下紙の身 手書に依りて山等の
おろし下りて山等の御書に平太書等
その乙酉村に依りて依在の梅に下り
その乙酉村に依りて依在の梅に下り
その乙酉村に依りて依在の梅に下り
その乙酉村に依りて依在の梅に下り

後小堀を以て川海公の回六中
二月十日病歿之卒五葉同等

宗系

久五所

父死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

宗次

左所八 初百長

父宗系死後新親任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

宗系死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

宗系死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

父死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

父死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

初百長

宗貞

父死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

父死後承繼任在年不竟永二葉
八月七日崩歿之卒五葉同等

高宗天皇の皇子子孫に於ては、病久しき
後入の嘉永七年四月、方死、不易智也。
葬、嘉永四年七月、藤原氏。

宗桓

皇孫、
嘉永七年二月、方死、不易智也。
葬、同月、二月、方死、不易智也。
葬、同月、二月、方死、不易智也。

宗昭

皇孫、
嘉永七年六月、方死、不易智也。
葬、同月、六月、方死、不易智也。

六、廿二月、方死、不易智也。

廣漢

母、嘉永七年、
嘉永六年五月、方死、不易智也。
葬、同月、五月、方死、不易智也。
葬、同月、五月、方死、不易智也。

元貞

皇孫、
嘉永七年、
嘉永七年、

日全平一二月頃迄之為村中ノ二
七リノ力中人ノ如ク之ニ四月
十五病死ノ之ニ也平ノ子ノ力死
二十八日也 善少海海ノ之也善

惟親

理之海 初海所
言百大後後

亥後七平介ノ子ノ如ク善少海海ノ八月
十三日也也也也

子道介
子道介
子道介
子道介
子道介



中系姓
井上

井上源心少海海ノ如ク也

高宗

治右海 一房系

父世傳井上源心少海海ノ如ク也

宗源源心少海海ノ如ク也
宗源源心少海海ノ如ク也
宗源源心少海海ノ如ク也

名德後梅ノ子ノ所百大後後也也也。

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

三巻之四日初日死志川首雄与妻

高程

高程 初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

高豊

高豊 初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

取巻二巻之四日初日死志川首雄与妻

高福

高福 又三序

女子活井能... 母生白あ



蘇東姓

系川

字及角月抱養所
抱養所

元年檢更家譜不知所由在系川

合立信元利永事年

南就注殿為子指門知子後系川信

坊主知知山石元信之子

安長

系川元信

母系

妻之病妻貞其女

於延元之稱後殿上之福士、未年二月
表坊之室永也、年正月、妻出後、
正德二年十二月、家智、正德二年正月、
海日丸

百法院稱、乃、正德二年六月、
此後、法武人、持行、正德二年十二月、
月、八、百、法、院、之、稱、正德二年十二月、

五月、正德二年六月、
八月、百、法、院、正德二年六月、
一、沙、水、坊、正德二年六月、
一、沙、水、坊、正德二年六月、

女重 系川其也

母之病、正德二年六月、
妻之病、正德二年六月、

百法院稱、乃、正德二年六月、

少子傳の卷之九 年一 四月九日 〇寛延二年二月十日病歿年三十

安定 弟川谷之命

兄安重之命

来 津田之命

津田之命

一女子

安定 弟川谷之命

母之命 弟川谷之命

母之命 弟川谷之命

妻 弟川谷之命

博任院 弟川谷之命 年一 四月九日 〇寛延二年二月十日病歿年三十

〇寛延二年二月十日病歿年三十 弟川谷之命 年一 四月九日 〇寛延二年二月十日病歿年三十

年十月三日高元寺傳入の元元九年
月廿七日高元寺傳入の元元九年
月廿七日高元寺傳入の元元九年

忠安 長門蜀虎 元嘉 石深

母家女 妻太野七江子義子女

高元寺傳入の元元九年 月廿七日高元寺傳入の元元九年

△定政五年一甲子年... 高元寺傳入の元元九年 月廿七日高元寺傳入の元元九年

安心 系川元助 在太郎

定政五年七月廿七日高元寺傳入



菅原姓

源姓

菅原氏系三郎

先祖源德源助武田信玄幕下と在り
其後遠江國清田村と在り

代清田村に在りて源德源助の長孫
源德源助の長孫

源德源助

方照

母

妻加友源氏女

正徳元年十二月
内野方由成林用
同永年十二月九日
彦太令由及○主原
三年由由國元

文昭院極極國殿
定方上以上切東百法○定永元中年十二月

旨

文昭院極極國殿
正徳元年十二月十日
保元元年六月旨法向書及
勅旨

○正徳元年十二月十日旨法向書及

保元元年六月旨法向書及

勅旨

百法極極國殿
上意之々々々々々々々々々々

○月七宣年有月九病死小普信門

正月十日病死○日平野年七月八病死

多知物也

彦太令由及○主原
三年由由國元

教旨

母加後作古為某女子

妻新良氏

有德院極極國殿
正徳元年七月十二日
宣子○宣子

保元元年十二月廿七日家督の門下元年二月
 廿七日少人徳の門下甲午年四月日先 山結系
 山法の宗源之元年四月二日半人徳の延享
 二年九月廿日
 百法徳梅所半人徳の門下甲午年四月日先
 免少書徳の明和九年四月十日徳徳の書
 二年八月十日病死 徳徳の書
 徳徳の書

美作人河内徳徳の書
 徳徳の書
 徳徳の書

方則

母

妻 村水 徳徳の書

徳徳の書
 年十二月十日 徳徳の書
 徳徳の書

如子

徳徳の書

方隆

伊熊荒市

母 方隆 妻 氏

妻 氏

方隆院梅代女也。四年十二月十二日家内小

童信の末子也。年四月五日家内通の月六

年十二月三日病死之由多知。延の月七年

二月五日病死之由多知。延の月七年

方隆
方隆院梅代女也
方隆院梅代女也
方隆院梅代女也

省方

母 氏

妻 氏 方隆 妻 氏

方隆院梅代女也

方隆院梅代女也。四年十二月十二日家内小

童信の末子也。年四月五日家内通の月六

方隆院梅代女也。四年十二月十二日家内小

方隆院梅代女也

養女

實任德信源氏方則女
養子有方書

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



大江姓

若田

系藏天皇第三皇子河原親王隆胤
之孫兼大江廣元十代若田之帝政廣
木代之孫若田休成恒系親江醫
業江之子道言字江廣安以年紀
類江之子江若田之醫師江初江若田
江若田之子江若田之孫若田道江若田之孫

定勝

是回平十部

信長御前
母 照治 承和帝三子女

信長御前
妻 有子 天龍寺南女

元禄十一年二月十日 御座 承和帝

正徳二年四月十日

有御座 承和帝 入御座 承和帝

同年六月十日 御座 承和帝

同年七月十日 御座 承和帝

同年八月十日 御座 承和帝

同年九月十日 御座 承和帝

同年十月十日 御座 承和帝

同年十一月十日 御座 承和帝

同年十二月十日 御座 承和帝

同年正月十日 御座 承和帝

同年二月十日 御座 承和帝

綾式

長岡節子

彦松

機

百法度所出式事深老七子年七月生下幼白
 河内見〇月二十九年九月生初名白虎
 書院番〇元文二年二月五日寅時生
 同日布衣〇正享二年九月五日寅時生
 福智寺長江法〇同日卯年二月五日酉時生
 細入〇室曆去美年六月二日酉時生

守森

武進

永井十助

元文六年九月十一日永井之後心武氏女子

女子元

長谷川 永井 氏 子 房 妻

定切

長岡平十郎

元文

攝津守長岡平十郎

女系

右記名女
後尾屋公定之方痛難別之後尾屋
一尾屋大定之方知天保元年九月
一尾屋公定之方知天保元年九月

天保元年九月後尾屋
尾屋公定之方知天保元年九月

定切

母

尾屋公定之方痛難別之

言三百後

素

尾屋公定之方痛難別之

寶曆十二年十月十日嫡孫尾屋公定家督小普
後天和七年二月十四日面凡尾屋公定之方知

二七年四月七日宗綱之方知天保元年二月十日

〇月廿五年四月八日於中之間也備大前

上院公方之方知天保元年七月十日於

上院公方之方知天保元年七月十日於

上院公方之方知天保元年七月十日於

〇天保元年

後尾屋公定之方知天保元年七月十日於

尾屋公定之方知天保元年七月十日於

寛政二年三月十八日
花檀子傷重
九月十日
九月十日

定達 若田兵衛

来 若田兵衛

来 若田万蔵



源姓 若田

若田兵衛

若田

若田兵衛

若田

若田兵衛

乃以七月太極地之病死年蘇之知

留水 忠回尔古考

母 妻 子 知

神水法中方之如在元和元工卯年八月日
病死年之知約力之林守之矣

百成 忠回尔古考

母 妻 子 知

慶安二年卯年八月日之知

法福法福下之知也故方也之兼德元正年

七月 神目之知也己年八月日之知也

此皆法福下之知也己年八月日之知也

年之知也己年八月日之知也

富永 尾田信吉

母 不知

妻 戸川 程兵衛 妻 氏女

江福屋 梅屋 曆元正永年十一月廿日 津月見

○月二箇申年十一月廿二日 切米 町 信吉 下口 寛

又元正永年十一月廿二日 吉野 町 信吉 町 信吉

信吉 元禄町 申年二月廿二日 病死 年 信吉

奇 義

富保 尾田大右衛門

寛文二年 申年 四月

清福屋 梅屋 氏女 新 娘 氏 名 尾田 信吉

富勝 尾田大右衛門

兄 富保 氏 子

富郷 尾田信吉

母 戸川権江為妻令女
毒之

寛文十二年正月廿五日

江戶府江村之孫

寛文十二年二月廿五日

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

常憲院御代

妻之知

西德之居年二月十日 神田具之の妻保十二
年一月十日 家督少曾清の母高七自年二月
廿七日大田番の母上六 幸亥年六月 都白大坂
少病死年蘇以之知
少子 河村中平の母上七

富昭

忠田保左衛門

富元

享保十六年五月兄若子

女子

少曾清の母上七

富昭

忠田保左衛門 中平

若母

若母

若母

享保十六年九月十日 若母少曾清

〇月二十二年四月十日 大田番の母保二成

年六月七日 病死少曾清の寛延二年

正月十日 病死年蘇以之知

高直 高直は源氏為基屋前

高直

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

高直

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

高直

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

高直

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

高直

高直 高直は源氏為基屋前

高直 高直は源氏為基屋前

口也年七月朔日五在也年十月十日之卯日以上者亦在也年十月十日之卯日

天明

天明四年

天明四年

天明四年

天明四年

天明四年三月九日

天明四年三月九日

天明四年三月九日

孝

孝子

天明四年

天明

天明四年

天明四年

天明四年

天明四年

天明四年

天明四年

天明四年

子
子
子

女子

元中府知事

石川氏

の子女あり 補正十八なりには東島

二
富敬

富敬

母 佐宗 女 正勝 女

妻 吉井 女 正勝 女

法月 正勝 女 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

富年 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

正勝 女 正勝 女 正勝 女

七 富次

岩田清三郎

母 吉井 氏 氏定之女

未 婚 子 又 氏 氏 貞 女

子 氏 氏

天保八年申年七月五日 白家物 甲府勤政

寛政十一年二月廿六日 氏 氏 氏

六 尚玄

天保八年申年十月九日 甲府勤政
岩田清三郎 子 氏 氏

七 富吉

岩田清三郎 氏 氏

如 子

甲府勤政
一 氏 氏 氏 氏 氏
二 氏 氏 氏 氏 氏
三 氏 氏 氏 氏 氏
四 氏 氏 氏 氏 氏
五 氏 氏 氏 氏 氏
六 氏 氏 氏 氏 氏
七 氏 氏 氏 氏 氏
八 氏 氏 氏 氏 氏
九 氏 氏 氏 氏 氏
十 氏 氏 氏 氏 氏

二 家晴

岩田清三郎 氏 氏

寛政十一年六月三日 白家物 甲府勤政

一 子

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

東原性
若園

若園古丸

家及凡山
若園 拾遺

政房

東照文子之弟也。父國尉之刺也。幼而失學。原其性。後或入持統天皇。而人西門跡。卒年。若園寺葬。

年十二月九日... 享保二年
正月廿七日

天皇院... 元文六年
正月廿七日

享保元年... 享保二年
正月廿七日

改道

恩田... 改道

享保元年... 改道

享保元年... 改道
享保十年... 改道
享保十七年... 改道
享保二十六年... 改道

由房

恩田... 由房

元文二年... 由房
享保元年... 由房
享保十二年... 由房

明和記年二月七日改改の日年十
二月廿六日皇侍月日〇月八年八月
紀元後孫孫孫送山法事一用日年
十月廿日改改改〇女永二年二月
系嘉慶後孫孫孫送山法事一用日年
十七日改改改〇日〇年二月甲辰
川山書法後孫孫孫送山法事一用日年
九月十日改改改七改〇女永七年
七月田安包船向山書法後孫孫孫
廿八日改改改田安〇日〇改〇日〇改

二月

孝恭院殿〇皇孫送山法事一用日年
四月廿二日改改改改〇日年四月
孝恭院殿〇皇孫送山法事一用日年
九年七月廿七日改改改改〇日年
八月廿五日改改改改〇日年
十二月九日改改改改〇女永十年二月
關東御門〇山書法後孫孫孫送山法事一用日年
四月廿六日改改改改〇日年
四月廿六日改改改改〇日年

用利七月廿五日
○同文年十二月

程服天心樂用○同七年十二月廿

七日獲治之○同七年九月

清代治之九日○同七年九月

勤方用○同年十月廿九日獲治之

○同年十二月 同年官下用○同七

年六月廿五日獲治之

之役○事之及之年八月獲治之

○同年十月廿九日獲治之

同年十月廿九日

景源院

天皇御代

十一月廿九日獲治之

御代

斗

格別

校

同

二月



教は心開の月年有月多
 抄教の月年九月末百
 の月は年八月末百
 校の月年二月百表
 日七年四月十九日陰
 物下

一書に書あり

幸なる所
 如くは年あり
 京



